

平成 14 年 10 月 11 日

各 位

会社名 シダックス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 志太 勤一
 (登録銘柄 コード番号 4837)
 問合せ先 常務取締役 藤田 一郎
 (TEL. 03-5908-1348)

平成 15 年 3 月期中間・期末の業績予想の修正について

平成 14 年 10 月 11 日開催の当社取締役会において、平成 14 年 5 月 27 日に発表いたしました平成 15 年 3 月期決算に係る業績予想の修正を決議いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成 15 年 3 月期中間期予想数値の修正 (平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	単 体			連 結		
	売上高	経常利益	中間純利益	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	8,085	6,495	6,324	59,405	2,405	1,134
今回修正予想(B)	8,065	6,506	6,343	58,571	2,849	603
増減額(B-A)	20	11	19	834	444	531
増減率(%)	0.24	0.16	0.30	1.40	18.4	46.82

(2) 平成 15 年 3 月期通期予想数値の修正 (平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	単 体			連 結		
	売上高	経常利益	当期純利益	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	10,004	6,307	6,233	124,847	7,154	3,383
今回修正予想(B)	9,978	6,322	6,231	122,408	6,664	2,524
増減額(B-A)	26	15	2	2,439	490	859
増減率(%)	0.25	0.23	0.03	1.95	6.84	25.39

2. 修正理由

(1) 中間期

前期の米国子会社売却資金等に関して、米ドル為替相場が \$ = ¥133.25 より \$ = ¥122.65 と大きく変動したことで、1,236 百万円の特別損失を計上することとなり、営業状況は予想経常利益を 18% 上回る好調な推移で来ておりますが、中間純利益が当初予想に比べ 46.82% 下回る見込みであります。

コントラクトフードサービス事業においては、長引く景気低迷にもかかわらず、低利益率店舗は前年より全社上げて取り組んでいる構造改革の中で運営の見直しを行い、営業利益は予想を上回る見込みです。メディカルフードサービス事業においても、運営の安定化に伴い既存店利益率が向上する見込みです。しかしながら大型店舗を含み新規受託が増加し増収を見込みますが、当初予想した以上のオープン費用が必要であったため営業利益は当初予想を

下回る見込みです。レストランカラオケ事業においては、景気動向を睨みつつ、より収益性の高い店舗開発を慎重に進め、今中間期における新規店舗見込み 26 店舗に対し 21 店舗をオープンさせました。売上高、営業利益とも、前年を上回るものの、売上高は当初予想を下回る見込みです。エスロジックス事業においては、当社営業店における一括仕入率が向上しており、売上高、営業利益とも当初予想を上回る見込みです。

(2) 通期

中間期修正理由の特別損失計上等による影響に加え、今中間期までの各事業の状況を鑑み通期業績見通しの変更を行いました。

コントラクトフードサービス事業においては、下期も引き続き低収益店舗の利益率改善が継続し予想を上回る営業利益を得られる見込みであります。メディカルフードサービス事業においては、既存店利益率が引き続き改善する見込みであります。新規店舗の費用増加を吸収するに到らず、増収となるものの、営業利益は予想を下回ることを見込んでおります。レストランカラオケ事業においては、顧客ニーズに、より一層対応するため、繁忙期であります年末にむけて最新カラオケ機器の入替に 383 百万円の追加経費投入を含め、積極的にリニューアル投資を行う予定です。また新規店舗の開発が遅れていることに伴い、今期業績に寄与する期間が短くなっていることの影響を加味しております。エスロジックス事業においては、一括仕入率をより向上させるため、現在首都圏地区より関西地区までの対応地域を今事業年度末までに北海道、東北、北陸、中国四国、九州地区を含む全国に広げる予定であります。インターネットを活用した受発注システムであるため、設備投資の増加は寡少であり、範囲拡大に伴い予想を上回る売上高、営業利益を見込んでおります。

さらに、構造改革の一環として下期より開始する新能力給賃金制度の合理化効果 3 億円が見込まれるなど、事業効率を重視しコストを適格にコントロールしながら、経営戦略上必要な投資を積極的に行い、企業価値をより一層向上させるよう努めてゆく所存であります。

以上

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測等は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、様々な潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績は、今後の当社を取り巻く市場の経済情勢等の要因により本資料に記載されている予想とは異なる場合がありますことをご承知おき下さい。